



シラバス参照

環境と社会 ('21)

Environment and Society ('21)

主任講師名: 大塚 直 (早稲田大学教授)

【講義概要】

環境を巡る社会のあり方について、生態学、経済学、法学の3つの学問分野から取り上げ、環境問題に関する総合的な学習をする。

【授業の目標】

3つの学問分野のそれぞれの観点を含め、環境問題に関して、一定レベルの総合的な理解を得ることを目標とする。

【履修上の留意点】

特になし。

各回のテーマと授業内容

第1回 ささまざまな地球環境問題

いわゆる地球環境問題と言われる問題全体を俯瞰して、その原因と社会に与える影響を概観する。地球環境問題は人間活動が原因となっており、それが人間生活のさまざまな局面で影響を及ぼしている事実を解説する。

【キーワード】

地球環境問題、気候変動、生物多様性、森林、人口、資源利用、持続可能性

執筆担当講師名: 中静 透

(森林研究・整備機構理事長)

放送担当講師名: 中静 透

(森林研究・整備機構理事長)

第2回 気候変動の原因と影響

地球環境問題のなかで、気候変動に的を絞って、その原因が人間活動による温室効果ガスの増加であること、その影響は気候の温暖化だけでなく、降水量の変化、海洋酸性化、災害の激化などを引き起こすこと、その対策に緩和策と適応策があることを解説する。

【キーワード】

温暖化、降水量の変化、極端現象、緩和策、適応策

執筆担当講師名: 中静 透

(森林研究・整備機構理事長)

放送担当講師名: 中静 透

(森林研究・整備機構理事長)

第3回 生物多様性と生態系サービス

生物多様性が劣化する現状とその原因が人間の土地利用や過剰な生物資源の利用、農林水産業のやり方の変化や外来生物などにあること、その影響が生態系サービスの劣化を通じて人間社会に影響を及ぼしていること、さらに、その対策などを解説する。

【キーワード】

生物多様性、土地利用、里山、外来生物、生態系サービス

執筆担当講師名: 中静 透

(森林研究・整備機構理事長)

放送担当講師名: 中静 透

(森林研究・整備機構理事長)

第4回 森林の持続的利用

森林生態系の人間による利用が引き起こした様々な問題の現状とその影響、対策について解説する。さらに、気候変動と生物多様性の両方にまたがる問題の解決についての具体的な取り組みなどを紹介する。

【キーワード】

熱帯林の現象、違法伐採、森林管理、野生生物問題、REDDプラス、認証制度、森林環境税

執筆担当講師名: 中静 透

(森林研究・整備機構理事長)

メディア	ラジオ
放送時間	2026年度 [第2学期] (水曜) 23:15~00:00
単位認定試験提出方法	Web
単位認定試験期間	2027/01/17 09:00 ~ 2027/01/25 17:00
学習センター試験日/時間	2027/01/21 1時限 (09:45~10:35)
学部・院	教養学部
科目区分	('24カリ) コース科目 総合科目 社会と産業
科目コード	1930052
ナンバリング	420
単位数	2単位
単位認定試験平均点	2025年度2学期(81.1点) 2025年度1学期(67.4点)
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

放送担当講師名:中静 透
(森林研究・整備機構理事長)

第5回 環境問題と地域の持続可能性

持続可能性と自然資本の考え方について述べ、地球全体あるいは地域の持続可能性を考えるうえで必要な、エコロジカルフットプリント、自給率、人間開発指数などの概念について解説する。

【キーワード】

自然資本、エコロジカルフットプリント、自給率、人間開発指数

執筆担当講師名:中静 透
(森林研究・整備機構理事長)
放送担当講師名:中静 透
(森林研究・整備機構理事長)

第6回 環境経済学の基礎

環境問題を経済学の視点から考えるための基礎的な理論、概念の解説を行う。

【キーワード】

公害、外部性、社会的費用、経済厚生、外部不経済の内部化、最適汚染水準、費用効率性

執筆担当講師名:諸富 徹
(京都大学大学院教授)
放送担当講師名:諸富 徹
(京都大学大学院教授)

第7回 環境政策の経済的手段とポリシー・ミックス

環境問題を解決するための政策手段にはどのようなものがあるのか、どのような政策手段を選択し、組み合わせるべきかを、「経済的手段」を中心に解説する。

【キーワード】

政策手段、ポリシー・ミックス、ピグー税、ポーモル＝オーツ税、環境税、排出量取引制度、補助金

執筆担当講師名:諸富 徹
(京都大学大学院教授)
放送担当講師名:諸富 徹
(京都大学大学院教授)

第8回 環境政策における経済的手段の理論と実際

「カーボンプライシング(炭素の価格づけ)をはじめ、環境政策における経済的手段の適用は、世界中に広がっている。それらは、実際に問題解決に効果があったのか、また、環境経済理論にどれだけ忠実／乖離しているのかを検証し、その背景理由を解説する。

【キーワード】

炭素税、カーボンプライシング、イノベーション(動学的効率性)、環境税制改革、二重の配当

執筆担当講師名:諸富 徹
(京都大学大学院教授)
放送担当講師名:諸富 徹
(京都大学大学院教授)

第9回 再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)

再生可能エネルギーはつい最近まで、高コストで変動性が高いため、その大量導入は不可能で望ましくないと言われてきた。だが、大きく局面は変わりつつある。固定価格買取制度(FIT)がもたらす政策効果、産業影響、電力系統接続ルールと費用負担、電力システム改革との関係について解説する。

【キーワード】

再生可能エネルギー固定価格買取制度(FIT)、賦課金

執筆担当講師名:諸富 徹
(京都大学大学院教授)
放送担当講師名:諸富 徹
(京都大学大学院教授)

第10回 環境問題と経済成長

環境政策は、経済成長を阻害するといわれるが、本当だろうか。環境問題と経済成長の関係をめぐる様々な議論を紹介し、実際に、環境政策の進展が経済成長にどのような影響を及ぼしてきたのかを検証することで、環境問題と経済成長の関係を問い直す。

【キーワード】

ポーター仮説、日本版マスキー法、環境政策と雇用増加、産業構造転換、炭素生産性

執筆担当講師名:諸富 徹
(京都大学大学院教授)
放送担当講師名:諸富 徹
(京都大学大学院教授)

第11回 環境における法の役割

環境問題について法はどのような役割を果たしているでしょうか。そもそも法とはどのようなものでしょうか。近代以降の財産権尊重の思想に対し、環境問題は、公共の福祉による財産権等の制限を要請しました。公害と「科学的不確実性」のあるリスクの双方の問題を扱います。

【キーワード】

公共の福祉、財産権、リスク、科学的不確実性

執筆担当講師名: 大塚 直

(早稲田大学教授)

放送担当講師名: 大塚 直

(早稲田大学教授)

第12回 環境基本法と環境法の理念・原則

環境基本法は1993年に制定されましたが、どのような背景で制定され、また、どのような特色を持っているでしょうか。環境権の規定は環境基本法に明確な規定はありませんが、その趣旨を入れたものがないわけではありません。環境権以外にも環境法の理念というものがあるのでしょうか。

【キーワード】

環境基本法、環境権、原因者負担原則(汚染者負担原則)、未然防止原則、予防原則、持続可能な発展原則

執筆担当講師名: 大塚 直

(早稲田大学教授)

放送担当講師名: 大塚 直

(早稲田大学教授)

第13回 個別環境法の仕組みと環境影響評価法

環境規制は伝統的には公害と自然保護の分野に分かれますが、廃棄物処理、温暖化対策などに広がっています。これらの仕組みはどのようになっているのでしょうか。また、開発行為をする前にその行為が環境に及ぼす影響を事前に調査・予測することは、環境破壊を防止するために極めて重要です。

【キーワード】

環境規制、水質汚濁防止法、廃棄物処理法、自然公園法、環境影響評価法

執筆担当講師名: 大塚 直

(早稲田大学教授)

放送担当講師名: 大塚 直

(早稲田大学教授)

第14回 環境訴訟

環境訴訟は大きく民事訴訟と行政訴訟に分けられます。それぞれについて環境問題にどう対処しているでしょうか。

また、公害民事紛争について訴訟による救済の困難性に対処するために、公害紛争処理制度が設けられています。これについても取り上げることにしましょう。

【キーワード】

民事訴訟、行政訴訟、公害紛争処理、過失、因果関係

執筆担当講師名: 大塚 直

(早稲田大学教授)

放送担当講師名: 大塚 直

(早稲田大学教授)

第15回 原発規制と放射性物質による汚染への対処

東日本大震災に伴って発生した福島第1原発事故は、原発規制に関する根本的な改革を迫ることになりました。では、従来の原発規制にはどのような不備があり、それはどのように改正されたのでしょうか。また、放射性物質による汚染は従来環境法の体系からはずされていましたが、法改正により、環境法に取り込まれたといわれています。これにはどのような意味があるのでしょうか。これらの点を扱います。

【キーワード】

原子力規制、放射性物質、バックフィット、環境基本法、環境影響評価法

執筆担当講師名: 大塚 直

(早稲田大学教授)

放送担当講師名: 大塚 直

(早稲田大学教授)